



PVSデータベース レジストリー構築の必要性

業務執行理事

ほんべつ循環器内科クリニック 院長

藤沢 明德

ワクチン接種後症候群(PVS)とmRNAワクチンの毒性

ワクチン接種後症候群 (Post-vaccination syndrome : PVS) = ワクチン後遺症

- ・mRNA-LNP製剤は血流によって全身に行き渡る。
- ・mRNAは非選択的に細胞に取り込まれ、スパイクタンパクを産生する。
- ・スパイクタンパクの直接的な毒性と、スパイクタンパクに対する免疫応答の破壊的影響
- ・脂質ナノ粒子自体の毒性

➡ **身体への影響も全身性**

- ・広範な全身的な病理、微小血栓、免疫的機転が存在している可能性が高く、症候は多種多彩で疾患の場は特定できない可能性もあり、また全身性と考えられるべき症例が多い。

ワクチン接種後症候群(PVS)の代表的な症状

あなたの体調不良、コロナワクチンの後遺症では？

嘔気・嘔吐

脱毛

強い倦怠感

めまい

歩行障害

味覚異常

顔の歪み

長引く頭痛

脳梗塞 脳出血

心筋炎 心膜炎

胸痛

**記憶力低下
ブレインフォグ
(脳の霧)**

聴覚異常

基礎疾患の悪化。
※早期がんの急激なステージ4への進行が散見されるようになり、ターボ癌との異名まで。

目の異常

不正出血
※生理ではない時期の出血、眼底出血などの他、傷が治りにくいといった報告も。

皮膚疾患

帯状疱疹
※帯状疱疹の原因はまさしく免疫力の低下です。ワクチン接種を重ねれば重ねるほど免疫力は奪われ、インフルエンザはもちろん様々な病を誘発します。

体の震え

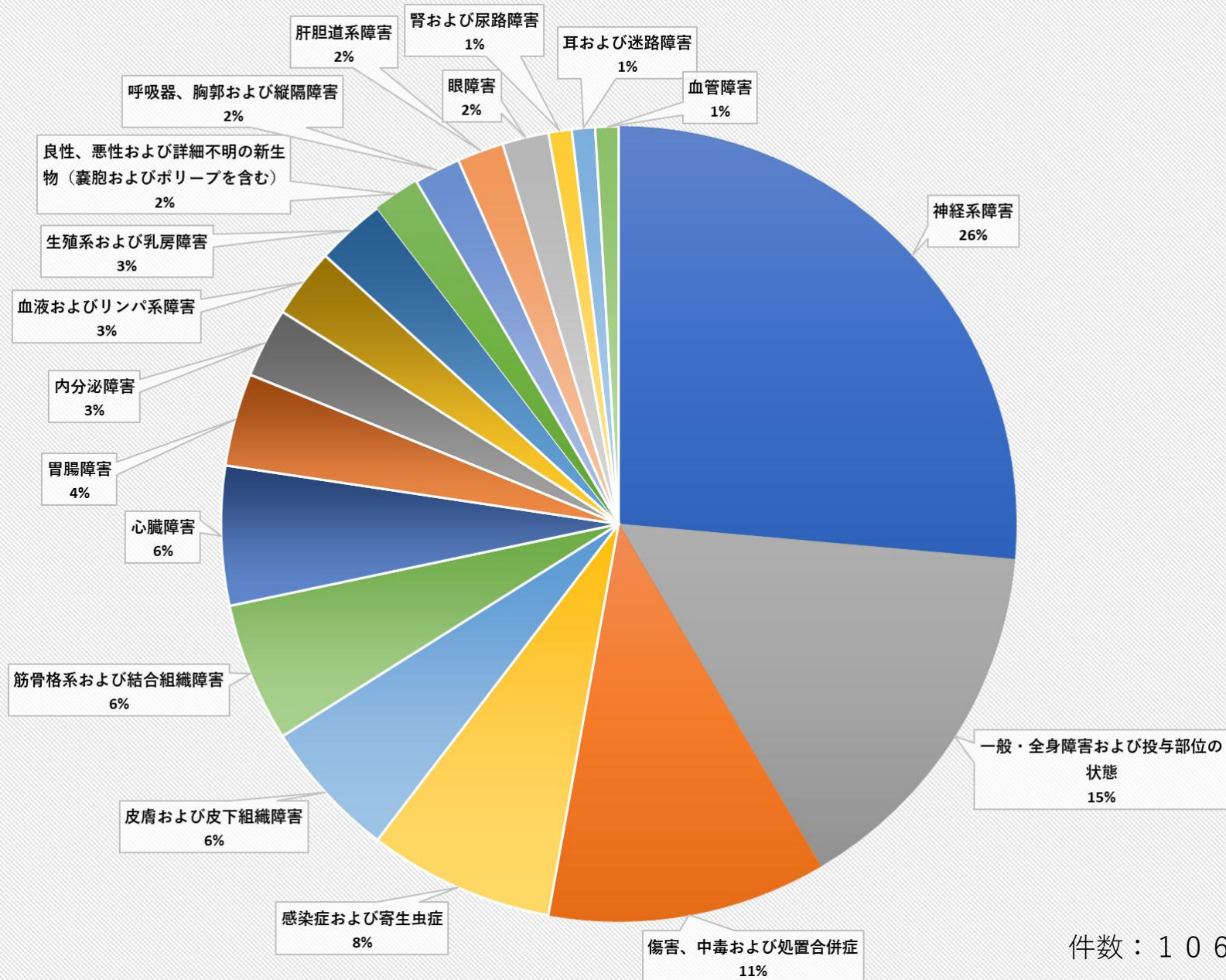
関節の痛み

全身の移動する痛み

抑うつ 不安障害 恐怖感

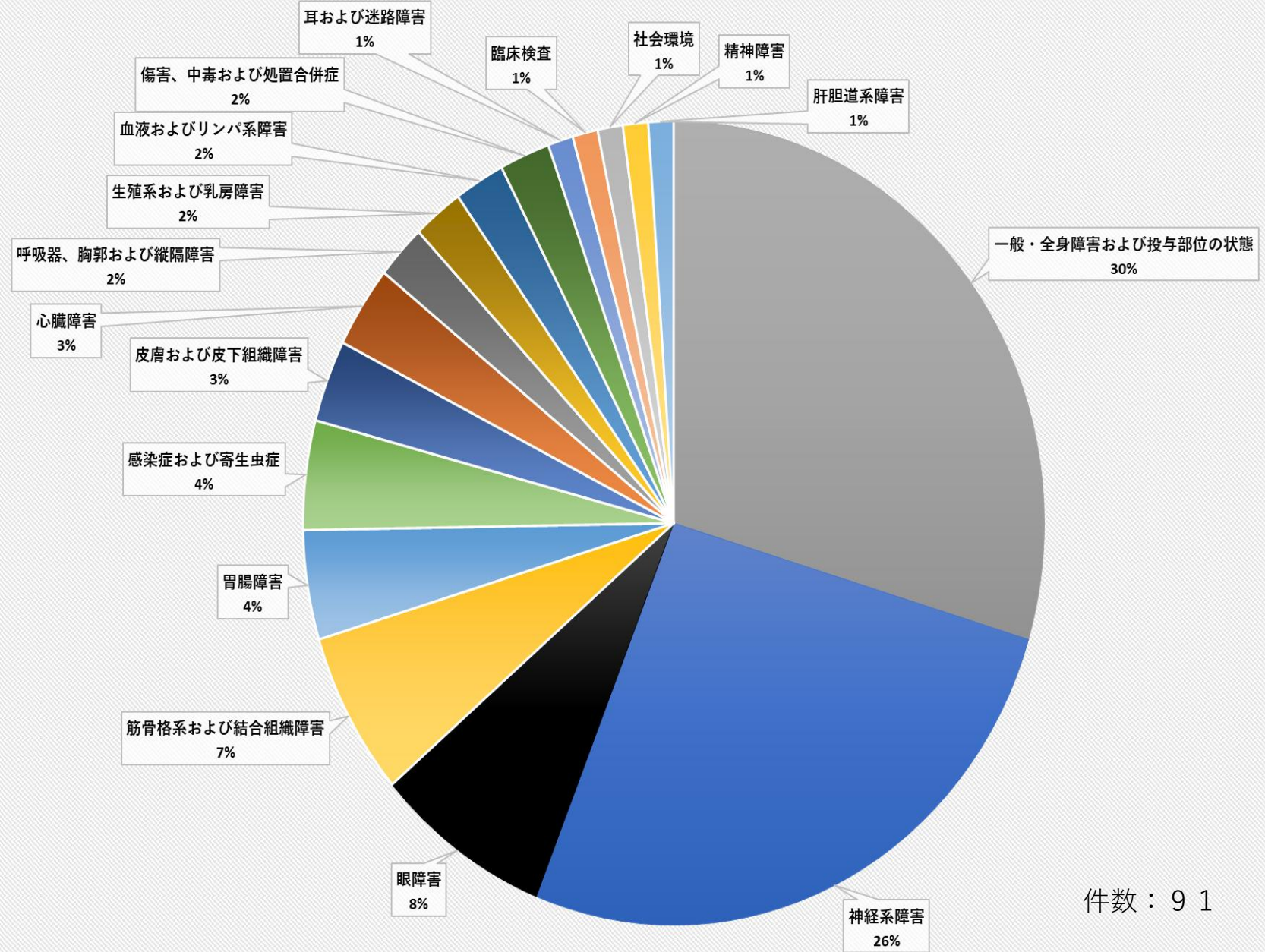
後遺症の代表的症状
ワクチン接種がスタートした直後から明らかにされてきた、ワクチン後遺症の一部です。その症状は驚くほど様々です。

确实



件数：106

确实



件数：91

ワクチン接種後症候群 診断基準とガイドラインの作成に向けて

PVS疾病登録レジストリ臨床研究

ワクチン接種後症候群 (Post-Vaccination Syndrome: PVS) について
疾患データベース (PVSレジストリ) を構築し、実態調査 (臨床研究) を
行うとともに、次の①から④までの課題を解決する。

① 診断基準の作成

疾患データベースを作成し、次に記すカテゴリー分類に従って、症候論、検査データ等々を整理してPVSの臨床像を明らかにする。

② 鑑別診断法・検査法の開発

生体サンプル（生検組織、細胞、血液、骨髄液等々）において、スパイクタンパク質、mRNA-LNP等々を検出する。

③ 診療ガイドラインに含まれるべき内容

1. 診断基準
2. 病型分類
3. 重症度分類
4. 予後分類
5. 1～4、それぞれの診断にかかる検査法
6. 推奨される養生法、治療方法

④ 有効な治療法の開発

PVS診断暫定カテゴリー分類（确实）

<カテゴリー1（“definite 确实”）>

ワクチン接種前は何も症状がなかった人が、ワクチン接種後に体調不良となり、日常生活が害され、医療機関を訪れるに至った場合、
以下の条件①または②を満たして、かつ③を満たすものをPVSとして暫定的に定義する。

- ① ワクチン接種後の副反応、症状の遷延
- ② ワクチン接種後、
1か月以内の発症(早発型)
1か月以上経過してから発症(1か月以上6か月未満:中間型、6か月以上:遅発型)
- ③ ワクチン接種以外の原因を特定できない

→接種前1年以内の健康診断で異常なしのエビデンスがある場合には
“definite 确实”と定義

→生体サンプル(生検組織、細胞、血液等々)において、スパイク蛋白が検出された等々、新たに開発された検査法によるエビデンスが得られた場合に
“definite 确实”と定義

【PVSデータベースワーキンググループのまとめ】

1. これまでにはない全く新しい疾病概念である“ワクチン接種後症候群”について、疾患データベース（PVSレジストリ）の構築、実態調査（臨床研究）の事業を開始した。
2. 多くの医師、専門領域の医師が観察した多種・多様・多彩な“ワクチン接種後症候群”の病理・病態が存在し、それらを包括的に分類する合理的な体系を作り上げることを目指す。
3. 最終的には「診療ガイドライン」作成に向けた作業であり、全国、全世界の“ワクチン接種後症候群”に苦しむ方々の診療へ寄与することに繋がるものと期待する。